

鈴鹿市立長太小学校		令和7年度 学校関係者評価		NO. 1
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題(○:成果 ▲:課題)	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>①根拠をもとに深く考え、自分の思いや考えを的確な言葉で伝え合い、受け止め、理解し合える授業研究</li> <li>●教員1人1回以上の授業公開</li> <li>②授業力UP5、ICT器機を活用した授業研究</li> <li>●児童アンケート肯定回答70%以上</li> <li>③全国学調、みえスタの結果分析をいかした授業改善</li> <li>●学調、みえスタ県・国の平均以上</li> <li>④家庭学習の充実</li> <li>●学期1回の家庭学習チェックシート肯定回答(取り組めた・もう少し)70%以上</li> <li>⑤読書活動の充実</li> <li>●児童アンケート肯定回答70%以上</li> <li>●学校図書館貸出目標50冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①根拠をもとに深く考え～理解し合える授業研究を意欲的に実践した。1人1回の授業公開達成。</li> <li>②授業力UP5、ICT器機を活用した授業研究。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童アンケートの肯定回答(4年生以上)主体的80%、対話的88%、深い学び88%、個別最適89%、協働的93%、</li> <li>○ICT器機の活用授業での活用週3回以上82%、毎日持ち帰り97%家庭学習での使用68%、学びやすさ85%</li> </ul> </li> <li>③学調、みえスタ県・国の平均をわずかに上回る。結果分析をいかした授業改善も順調に進行。</li> <li>④▲家庭学習チェックシートの肯定回答1回目83%、2回目67.2% 3回目77.4%</li> <li>⑤▲読書活動アンケートの肯定回答(4年生以上)読書が好き60%、読書時間10分以上51%</li> <li>▲図書館貸出平均現在 38冊。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②児童アンケートの回答結果は、概ね良好だった。主体的な学びだけが全国平均を下回っており、日々の授業の中で自ら学ぶ態度を育てるとともに、学び方を自分で選択できるように、複線型の授業を積極的に取り入れていく。</li> <li>⑤計画的に学校図書館を利用する取組を進めていく。本の魅力を伝える巡回図書指導員にブックトークを積極的に依頼していく。一度に借りられる冊数を増やすなど、図書委員を中心とした読書習慣をつけるための取組を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員一人一回の授業研究ができるのは素晴らしい。授業力のアンケートでは肯定的な回答が多く、主体的な学びの改善については授業の進め方を常に工夫・改善して良い。読書活動については50冊には届いていないがブックトークの依頼や貸出できる冊数の増加など前向きに工夫されており、今後に期待したい。学校図書館の開館は昼休み等に限られていると思うが、いつでも気軽に自由に本に触れられる・利用できるのが重要だと思うので、学校図書館の開館時間に改善の余地がある。</li> <li>●図書館の蔵書の充実を図る方法を検討してみてもどうか。クロームブックで電子書籍を使えるよう、市と交渉してみてもどうか。</li> <li>●若い先生方にとって、授業研究の機会はとてもありがたいと思う。ぜひ積極的に取り組める雰囲気づくりをお願いしたい。</li> <li>●読書については手近なところに本があることが一番かと思う。蔵書管理の問題はあると思うが学級文庫(廊下文庫)が充実すると良いのでは。外国籍の児童が増える中、学力調査の結果が平均を上回るのは教職員の努力のおかげと思う。</li> <li>●読書を習慣化することは大変かと思うが、取り組み続けていただきたい。</li> <li>●図書の本の利用にポイント制を用い、特典として葉がもらえるようにしたら、子どもはうれしいと思う。図書委員や消しゴムはんこクラブが協力すれば良い。また、月末に借りた冊数が多いクラスを放送で伝える。</li> <li>●今の時代には読書習慣は難しいのかもしれない。デジタルの時代、入力すれば答えらしきものが見出せる。</li> <li>●家庭学習の充実・読書の充実を引き続き力を入れてほしい。家で学習・読書を楽しむ効果が上がるようにお願いしたい。クロームブックを子どもたちはしっかり活用できているのか。使いこなせる子と使いこなせない子で、すごく差ができていないか、ちょっと心配である。</li> <li>●ネット時代の若者の本離れを心配していた。仕方ないとおきらめかいていたが、読書活動の取組で成果が出ることを期待したい。授業研究結果分析を生かした授業改善で平均以上→今後に期待したい。</li> <li>●校内の雰囲気は校長先生をはじめ教頭先生、教諭の皆様の方によりとても良いと思う。学校は雰囲気が大切なように考える。今後の改善点で良いと思う。頑張ってください。</li> </ul>
長期欠席対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子ども支援シート等を活用し、適時の支援会議・ケース会議の開催</li> <li>●会議記録、情報共有</li> <li>②綴り方による児童理解と思いの共有</li> <li>●毎週1回以上の取組</li> <li>③全教職員で児童に関わる体制づくりと情報共有</li> <li>●職員会議、打ち合わせ、日常会話</li> <li>④家庭、スクールカウンセラー、教育委員会等の関係機関との連携</li> <li>⑤特別支援教育関連の研修の充実</li> <li>●学期1回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①○支援会議・ケース会議を開催できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有が課題解決につながっている。</li> <li>▲長欠児童は増加する傾向にある。</li> </ul> </li> <li>②○週1回の取組で児童理解と児童の思いが共有できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた学校運営につながっている。</li> </ul> </li> <li>③○全員で児童に関わる体制ができた。家庭訪問で、解決の一手を踏み出せたケースもあった。</li> <li>④○関連機関との連携も十分だった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▲家庭事情や成育歴等がもともになる課題があり問題が複雑化している。</li> </ul> </li> <li>⑤○研修を計画通り学期1回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たな不登校を生まないう、校内で居場所づくりを進めていくとともに、綴り方を活用しながら一人ひとりに寄り添う指導を実践していく。</li> <li>④児童のプライバシーや思いを尊重した対応が必要で、完全な解決は困難である。現在も、関連機関との連携を図りながら対応中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長欠は、家庭の事情や成育歴、学校内での交友関係など複合的な原因によって起こるので、プライバシー保護の観点から解決が難しいと思うが、関連施設との連携のもと引き続き対応してほしい。</li> <li>●家庭環境からくる不登校は特に対応が難しく、問題の複雑化に対応する教員の課題でもあるが、負担になりすぎないように、専門の職員の配置を検討してみてもどうか。</li> <li>●全国的に不登校児童が増加しているが、有効な手立てがあまりないと思う。やはり一人ひとりの児童と根気強く向き合えないのではないのか。担任にもっとゆとりの時間(児童とゆっくり向き合える時間)が欲しい。</li> <li>●複数の要因がある中で対応する教員の負担も大きいと思うが、学校がより多くの子どもの居場所になるよう願う。</li> <li>●支援シートが効果的である。一年の終わりに学校での様子が書かれているので、引継ぎの時にその子の様子がよく伝わっていく。</li> <li>●学校に来て、友達と楽しく遊べる居心地の良い環境づくりをお願いしたい。</li> <li>●新たな不登校を作らない。初期対応を徹底する。以前初期対応で「3日ルール」を聞いたことがある。3日程度の連続欠席で、担任や養護教諭が状況を確認し校長等へ報告する。</li> <li>●不登校の子どもたちが増えていかないよう、先生方は大変だがよろしく願いたい。親もどうしたらよいか悩んでいると思うが、もう一度親自身、しっかり子どもと向き合ってもらいたいと思う。愛情不足になっていないのかな。</li> <li>●長欠児童は綴り方の継続も難しくなってしまうのではないかと。言葉で伝えることが苦手な子ども綴り方で伝えることができ、誰かに認めてもらえる。思いが伝わる経験は大事だと思う。</li> <li>●不登校は悪と考える一待つことは愛である。自立の精神ができれば、社会に貢献できる。不登校により鍛えられる事が大いにある。</li> </ul>
非認知能力育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「綴り方」に取り組み、自己肯定感を高める</li> <li>②行事や委員会、課外活動を通じてやり抜く力や社会性を高める</li> <li>③道徳や人権の学習を通して、自制心や社会性を高める</li> <li>●①～③について児童アンケート実施</li> <li>●否定回答10%以下</li> <li>④学級づくり、仲間づくりの人権教育に関する校内研修の充実。</li> <li>●学期1回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①▲自己肯定感の高まりが認められない。(アンケート)自己肯定感の否定的回答16.22%</li> <li>②○やり抜く力は、わずかに目標を達成できなかった。社会性は、否定的回答が少なく育っているといえる。やり抜く力の否定的回答11.49%社会性の否定的回答4.05%</li> <li>③▲自制心もわずかだが目標を達成できなかった。自制心の否定的回答12.84%</li> <li>④○校内研修は計画通り学期1回実施できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▲小さな静いが各学級で発生する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アンケート結果を多角的に分析するとともに、非認知能力を高める研修を実施し、効果的な方法を探っていく。</li> <li>④トラブルのほとんどが、相手のことを考えない自己中心的な感情から発生したものであり、人権教育を進めたい中で解決させ、成長の糧となるよう指導していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己肯定感の高まりが見られない原因としては、勉強や運動などでうまく結果を出せない、クラスで友達とのコミュニケーションが難しいといった日常的に問題に起因していると思う。他を思いやる優しさを持つにはどうするとよいのかを指導することは難しいが、保護者への資料配布や授業で対応してほしい。</li> <li>●自己肯定感、近年に限らず子どもが獲得したい項目であり、非常に難しい課題であると思う。自己肯定感が高まることで相手を思いやる心が育つと思う。</li> <li>●子どもだけでなく、日本社会全体が自信を失っているように思う。ややもするとおとなしい子がいい子だと思いがちだが、ひたすら我慢するだけではダメでONとOFFの切り替えができる人間がこれから多くなってほしい。</li> <li>●保護者への意識づけも必要かもしれない。</li> <li>●綴り方で文章表現の力をしっかりつけてほしい。勉強はしっかりやってほしいが、思いやり、自信、協調性、意欲、忍耐力、やり抜く力と非認知能力もしっかり身に付けてほしい。</li> <li>●小さなトラブルも自分たちで解決しようという力がついてきていると感じる。先生方の問題解決の方法を子どもたちも取り入れている。相手を変えようとせず、自分たちの行動を変えていこうとしている場面を見て、学校での関わりの中で学んでいるんだなと思った。成長が楽しみである。</li> <li>●個→地域(地元)→三重県→東海地域→日本→地球。犯罪のない地域づくりを考える。訓練。差別のない社会を作る。秩序を重んじる。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校通信、ホームページの充実</li> <li>●年20号以上</li> <li>②学校運営協議会の充実</li> <li>●年6回</li> <li>③地域人材等の外部講師を活用した出前授業の充実、地域行事参加</li> <li>●出前授業年20回以上</li> <li>④学習ボランティアの充実</li> <li>⑤防災教育の充実、学年に応じた防災学習の実施、地域との連携強化</li> <li>●避難訓練年3回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①○通信に関しては、現在26号で目標を達成できた。ホームページは個人情報保護の観点から、充実や発展を見合わせ中。今後、内容を精選する。</li> <li>②○予定通り実施、学校情報を積極的に開示。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休みに、協議会と教員との交流ができた。</li> </ul> </li> <li>③○出前授業は現在21回実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域行事参加への意識は高まっている。</li> <li>▲地域行事への参加児童の固定化。児童アンケートの肯定的回答地域行事に参加していますか66.5%</li> </ul> </li> <li>④○各種ボランティアにより授業が充実した。</li> <li>⑤○防災意識は高まった。避難訓練4回実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▲学校の防災教育が地域と未共有。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③誰もが参加できるようにさらに地域行事への積極的な参加を働きかけていく。</li> <li>⑤地域に向けて情報を発信し、まちづくり協議会を通して、地域防災を含めた連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の直近に公民館がある好立地条件なので、子どもの居場所、親の体験場、地域住民の交流の場づくりをまち協とともに作り上げていけたらよい。特に地域防災については情報を共有し連携を深めたい。</li> <li>●地域人材の活用は、非常にメリットがあると思う。教職員のさらなる負担軽減のためにもさらに活用を進めていただきたい。</li> <li>●学校からの情報発信は充実していると思う。学習ボランティアがもっと増えるといいが・・・</li> <li>●地域住民にとって学校通信は、小学生の様子を知ることができる貴重なお知らせである。来年度から回覧回数が減ると思われるが今年度同様の情報量を出してほしい。</li> <li>●津波避難訓練で、体調が悪くなったリトイレに行きたくなったりする児童が何名かいて、先生に伝えるのも難しかった。地域の方にも協力してもらい人数を多く配置する。もしくは、何かあったときに連絡を取り合えるように参加してもらおう。PTA役員か地区委員に事前に伝達する必要がある。</li> <li>●いつも地域行事に多数参加する様、PR活動してもらい、ありがたく思う。今後よろしく願いたい。</li> <li>●学校・まちづくり協議会・各自治会が連携が取れるように具体策を作成。</li> <li>●学校通信を回覧で見るのを地域の方々はとても楽しみにしている。引き続きお願いしたい。ボランティア活動・学校行事・学校からのお願いは、学校通信に載せて回覧で回すことで協力者が出てくるように思う。</li> <li>●自分も黄色いベストを普段から着用する機会を増やそうと思った。防災の知識も地域全体の共有をお願いしたい。まち協やサロンでも声をかけていきたいと思う。</li> <li>●現状のままでよいと考える。海が近い事で防災教育は大切であると思う。防災訓練は必要である。</li> <li>●時間外労働削減や、定時退校を徹底することで仕事の持ち帰りやサービス残業が増えていないか心配。業務の外部委託等を検討してほしい。</li> <li>●規定時間内に終了不可能な量が発生するのは、致し方ないとしても、何か事務的な補助など補助等人員対策も含めて検討してみたいかがか。</li> <li>●基本的には、業務を切り捨てるか人員を加配するか二択だと思う。長期休業中の出勤、(効果の薄い)研修や出張は極力減らすべきである。自宅研修も大いに結構、それぐらいしないと教員のなり手がなくなる。</li> <li>●様々な工夫のもと、照り組んでいただいていると思う。労働時間削減について学校内だけで成果を出すのが難しくなっているのではないかも思う。</li> <li>●PTA活動で図書室を使い先生方の労働時間を長くしてしまい申し訳ないと思う。いつも協力していただき感謝している。先生方の労働時間が短縮できるようにPTAも協力したい。PTA活動とともに、先生方の業務内容も可能な範囲で簡略化や内容変更できればと思う。</li> <li>●児童・生徒の減少による教員削減等で大変だと思うが、自身の目標を達成してほしい。</li> <li>●先生方にはたいへんご苦労をかけているが、連携をとりながら時間ロスを無くし、家庭や家族も大切にしてほしい。</li> <li>●先生方には働き方改革をしていただいて、ご自分の身体、ご自分の家族も大切にしてほしい。いつもお世話かけてます。</li> <li>●教育者として限られた時間の中で授業する姿は、学生たちはいつも見ている。気を抜くことはできないが、簡素化できるところを工夫していただけたらと考える。感謝している。</li> </ul>
学校における働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>①時間外労働時間の削減への意識づけ</li> <li>●月45時間、年360時間以上0人</li> <li>●月平均時間外労働30時間以下</li> <li>②会議時間の短縮</li> <li>●60分以内に終わらせる会議70%以上</li> <li>③定時退校日の設定</li> <li>●定時退校できる職員80%以上</li> <li>④1人あたりの休暇取得増加</li> <li>●1人23日以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①▲時間外労働に個人差が大きい。月45時間を超えたことがある職員7人。年360時間を超えた職員10人。</li> <li>②▲60分以内の会議 54%</li> <li>③○定時退校日の達成職員 92%</li> <li>④○休暇取得平均は 28.7日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①規定時間内に終了不可能な量の仕事があり、特に組織の要となる職員の負担が大きい。学級事務や行事の簡素化、余剰授業のカット等、多方面から業務削減を検討したい。</li> <li>②会議開始前に資料を読み込んでおく等、効率化を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日のようにコンプライアンス違反の情報を目にするが、実際は隠れていたことがやっとならに出たように思う。風通しが良い・信頼関係があるといった状況では防ぐことは難しいので、常に徹底した研修と状況把握を行うべき。SNS上で飛び交う内容を見て、子どもを守ることの難しさと私たち大人の責任を痛感する。</li> <li>●職員の信頼関係が構築されているということは、たいへん心強いことであるが、それが逆に隙を作ることがないように気をつけていただきたいと思う。</li> <li>●「油断大敵」この一言に尽きる。</li> <li>●長太小の先生に心配はないが、研修の継続を望む。</li> <li>●全国で報道されているような不祥事が長太小、鈴鹿市内、三重県内でおこっては絶対困る。長太小ではありえないと思う。</li> <li>●先生方が元気で仲の良い姿は、子どもたちにもよい影響を与えるので、今後もよろしく願いたい。</li> <li>●近年、マスコミ・メディアで教職員の不祥事が多くある。個々の自覚・責任が希薄な状態であるのではないかと。教育者として大人としての自覚が必要だと思う。</li> </ul>
法令順守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不祥事根絶への意識向上</li> <li>●会議毎に、法令順守の話題提供</li> <li>②コンプライアンス・ハンドブックや県教委通知を活用したコンプライアンス研修の充実</li> <li>●コンプライアンス・ミーティングを年1回以上</li> <li>③職場アンケートやチェックリストによる実態把握と取組の改善</li> <li>●アンケート等を年3回実施</li> <li>④何でも話し合える職場の雰囲気づくりと相談体制の充実</li> <li>●面談を学期1回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①○会議毎に話題提供できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○職員同士がコンプライアンスについて話し合う機会が増加した。</li> </ul> </li> <li>②○コンプライアンスミーティングは実施できたが、年度末になってからしか実施できなかった。取組の遅れを感じる。</li> <li>③○職場アンケートにより実態を把握した。取組改善の必要は特になかった。</li> <li>④○全職員が職場の雰囲気づくりに貢献、明るく風通しの良い職場が実現。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○気軽に相談できる体制が常態化している。</li> <li>○面談は学期に1回のほか、長・短含め適時実施できた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②職員間に強い信頼関係があり、風通しの良い職場になっていることから、コンプライアンス研修への意識が低くなりがちだが、心の隙を作らないためにも、研修は必要と考える。県教委からの通知や全国で報道されている不祥事も、自分事として受け止めたうえで、計画的に研修を実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日のようにコンプライアンス違反の情報を目にするが、実際は隠れていたことがやっとならに出たように思う。風通しが良い・信頼関係があるといった状況では防ぐことは難しいので、常に徹底した研修と状況把握を行うべき。SNS上で飛び交う内容を見て、子どもを守ることの難しさと私たち大人の責任を痛感する。</li> <li>●職員の信頼関係が構築されているということは、たいへん心強いことであるが、それが逆に隙を作ることがないように気をつけていただきたいと思う。</li> <li>●「油断大敵」この一言に尽きる。</li> <li>●長太小の先生に心配はないが、研修の継続を望む。</li> <li>●全国で報道されているような不祥事が長太小、鈴鹿市内、三重県内でおこっては絶対困る。長太小ではありえないと思う。</li> <li>●先生方が元気で仲の良い姿は、子どもたちにもよい影響を与えるので、今後もよろしく願いたい。</li> <li>●近年、マスコミ・メディアで教職員の不祥事が多くある。個々の自覚・責任が希薄な状態であるのではないかと。教育者として大人としての自覚が必要だと思う。</li> </ul>